



質的研究について

本調査研究事業では、質的研究として、「参加観察法」による調査方法を用いた。さらに、質的研究のデータの分析方法として「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ」(M-GTA)という手法を用いた。

質的研究では、主に言語データを取り扱うことに伴い、「固有的」「多義的」「主観的」な研究方法であるという特性をもつ。

質的研究のデータ分析の特徴

本調査研究では、参加観察法により得られたデータを「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ」(以下M-GTAという)の手法を援用した。

このM-GTAは、データに密着した分析から理論をつくり出す分析方法である。つまり、データをよく見て、よく読んで、解釈することを大切にしている。

M-GTAでは、体験活動における人間関係形成に関

日本海を目指す「夢のプログラム」(活動の記録)

私が、班に合流したとき、班は2つに分かれていた。私は、遅れがちの方(Bさん、Gさん、Aさん)に着いていたが前のメンバー(Eさん、Fさん、Dさん、Cさん)に早いとも、待っても言わずマイペースに話しながら歩いている。ときおり、ヒグラシから「急いで」と声がかかる。と瞬足取りが早まるがすぐに元通りになる。除雪センターまでそんな状態がつづき、お昼休みをとった。

(本報告書26・27ページ下段に全文を掲載)

表1 観察記録(妙高青少年自然の家「キャンプとお手伝いの旅」より)

する概念をつくっていく。それを説明するために、概念間の関係をとらえながら、対象の変容のプロセスを明らかにすることに優れている。

また、M-GTAの特徴として、次の3点が挙げられている。

- ① 継続的比較分析：一人ずつのデータをみて、それぞれを比較しながら分析していく。
- ② 理論的サンプリング：データから概念を生成するとき、概念を探しながらデータを読み取っていく。
- ③ 理論的飽和：新しい概念や解釈が出てこない状態で、分析は完結する。

質的研究のデータ収集の方法

質的研究のデータ収集方法には、参加観察(関与観察、参与観察)、面接法(インタビュー)、感想文(課題レポート)等があるが本調査研究では、主に、参加観察法を用いて、データの収集を行った。

例えば、妙高青少年自然の家では、「キャンプとお手伝いの旅」では、キャンプカウンセラーが、期間中の自分の担当するグループの記録をとり続けた。

このように、キャンプカウンセラーが、観察対象(自分が担当している班の子どもたち)への影響(関係性)を及ぼしながら観察し、キャンプカウンセラーと子どもたちの固有な体験を記述していったものである。(表1参照)

質的研究のデータ分析の手順

◆概念の生成

まず、データ全体を読み、表2のように分析ワークシートを作成する。(本報告書38・39ページに「分析ワークシート」を掲載)

概念1	事業開始時の不安
定義	事業が始まり期待と不安が入り混じった様子
ヴァリエーション	開校式が始まり、オーラのすごい教員の方々の紹介などがあり、これからどうなるのだろうか不安ばかりだった。(6月 Hさん)
	他の大学生と上手くやれるのだろうか、自分がリーダーとして小学生の前に立てるのだろうか、あらゆる問いかけを自分自身にぶつけ、不安な気持ちと戦っていた。(9月 Gさん)
	いよいよセミナーが始まるのだという実感が沸いてきた。それに比例して周りが年上の人ばかりという状況も手伝って不安が増してきた。(10月 Kさん)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人と接することへの不安 ・自分より立派に見える人たちとの生活への不安 関連:概念4 子どもたちとの出会いへの不安 類似:正直言うと、私は小学生位の子供が苦手なので、この事業に参加しても大丈夫かという不安があり、あまり乗る気ではなかった。(10月 Oさん) 対比:概念1 事業開始時の不安

表2 分析ワークシート(乗鞍青少年交流の家「自然体験活動リーダー養成セミナー」より)

子どもたちの具体的な言動、気持ちなどをヴァリエーション欄に記入していく。そして、ヴァリエーションの内容を簡潔な文章で表現した定義を導き出し、さらに定義をより凝縮した簡潔な言葉を考えて概念名を記入していく。こうして、子どもの具体的な姿から複数の概念が生成されていく。



◆カテゴリーの生成

次に、個々の概念について他の概念との関係を丁寧に検討していく。

そして、2つの概念が関係づけられたら、さらにそれに関係してくる概念はなにかを検討し、複数の概念の関係からなるカテゴリーを生成していく。概念が生まれた要因を整理する手続きである。(表4参照)

多岐にわたる概念から、カテゴリーを生成していく過程では、複数の分析者により多面的に検討していく。これにより新しい解釈が出てこない「理論的飽和」を確認する。

このようなデータの読み取りと整理を丁寧にしながら、分析の意図に応じて、キャンブ全体、あるいは特定の活動場面を取り上げた「概念の定義」、そして「概念」が整理されていく。(表3参照)

No.	概念	定義
1	メンバーの分裂	班のメンバーが分裂している様子
2	メンバーへの無関心	互いに他のメンバーを気にしない、関わらない様子
3	理解と行動のギャップ	分かっているが行動が伴わない様子
4	疲労の蓄積	疲労による体力の低下と増える休憩
5	目標の自覚	自分たちで決めた目標を自覚する様子
6	目標達成への意思	目標を達成する意思の強さの表出
7	共に頑張る姿	みんなで一緒にがんばろうという気持ちが行動に表れ始めた様子
8	仲間への思いやり	他の仲間を心配する様子
9	励まし合い・助け合い	励まし合い助け合う様子
10	仲間意識の芽生え	チームとしての一体感の表出目標達成に向かう強い意志
11	やり遂げた開放感	やり遂げた開放感の表出
12	無限の可能性	子どものもつ無限の可能性
13	楽しい会話	楽しい会話が弾む様子
14	心地よい仲間関係	共に行動することで心が通い合い仲良しになる様子
15	自分の役割認識	チーム全体の様子を見て、自分ができるところをしようとする行動
16	協力の大切さへの気づき	目標を達成するためにみんなが力を合わせることが大切だという気づき
17	チームの目標達成	チームとして目標達成を達成することの喜びの感得

表3 具体例から導き出した概念の定義と概念 (妙高青少年自然の家「キャンプとお手伝いの旅」より)

カテゴリー		観 念
集団でのチャレンジ体験	自己中心的な思考・行動	メンバーへの無関心
		メンバーの分裂
		理解と行動のギャップ
	身体的疲労・苦痛	疲労の蓄積
		共に頑張る姿
		目標達成への意思
	共通体験による願いの深化	目標の自覚
		励まし合い・助け合い
		仲間への思いやり
		協力の大切さへの気づき
成功体験	仲間との関係性の確立	仲間意識の芽生え
		自分の役割認識
	自己有用感	心地よい仲間関係
		楽しい会話
		無限の可能性
	自信・満足感の感得	チームの目標達成
		やり遂げた開放感

表4 概念とカテゴリー (妙高青少年自然の家「キャンプとお手伝いの旅」より)



◆結果図およびストーリーライン

さらに、分析の結果の全体となるカテゴリーと概念の相互の関係を示す結果図を作成する。(図1参照)

これは、「人間関係能力を育む」視点から、事業に参加した子どもたちの気持ちや行動、他者とのかわりの変化、変化を生み出した要因等について、生成したカテゴリーと概念をもとに、説明するものである。

また、結果図をカテゴリーと概念を用いて、簡潔に文章化(ストーリーライン)する。

これにより、本調査研究における「体験活動が青少年の人間関係に与える影響」について、子どもたちの姿容の姿と、その要因となる子ども同士のかかわり、プログラムのねらい、指導者の支援等を明らかにすることが可能となる。

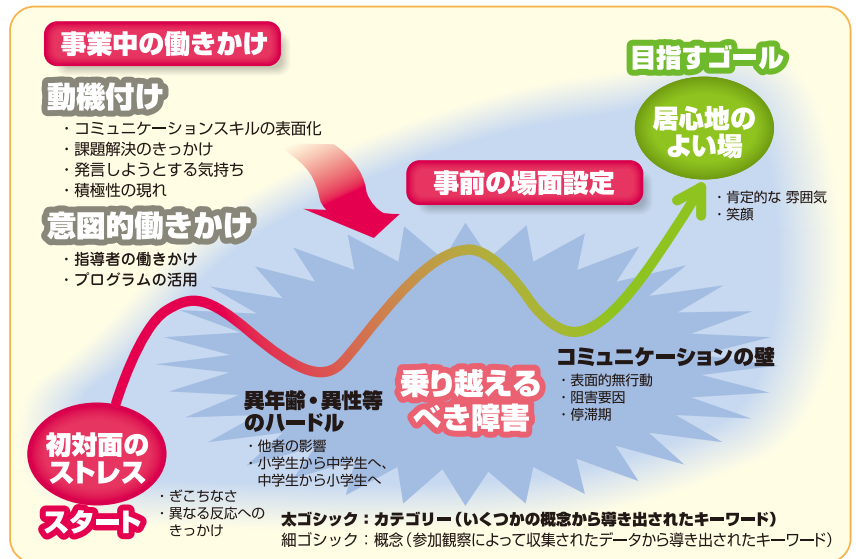


図1 コミュニケーションスキル育成の結果図 (能登青少年交流の家「コミュニケーション育成事業」より)